

## 令和4年度病害虫発生予報第11号（3月予報）概要表

令和5年2月27日  
埼玉県病害虫防除所

作物名・病害虫名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>1 麦</u>		
(1) うどんこ病		並
(2) アブラムシ類		並
(3) ムギダニ		並
<u>2 トマト（冬春栽培）</u>		
(1) 灰色かび病		並
(2) 葉かび病		並
(3) 黄化葉巻病		並
(4) コナジラミ類		多
<u>3 きゅうり（冬春栽培）</u>		
(1) ベと病		やや少
(2) うどんこ病		並
(3) 灰色かび病		並
(4) アザミウマ類		やや多
(5) コナジラミ類		やや多
<u>4 いちご（本ぼ）</u>		
(1) 灰色かび病		多
(2) うどんこ病		並
(3) アザミウマ類		やや多
(4) ハダニ類		やや多
<u>5 茶</u>		
(1) カンザワハダニ		やや多

### 表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

令和4年度病虫害発生予報第11号（3月予報）

令和5年2月27日  
埼玉県病虫害防除所

1 麦

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
うどんこ病	並	○2月中旬の発生量：－ □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（＋）	・窒素質肥料の過多は多発生の原因となるので、生育に応じて適切に追肥する。 ・12月以降に播種した「さとのそら」では、多発する恐れがあるので、早期発見に努め薬剤による防除を実施する。
アブラムシ類	並	○2月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の発生量：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（＋）	・テントウムシ類等の捕食による密度低減効果を高めるため、天敵の温存を心がける。 ・気温が高く雨が少ない気候が続くと急激に増加するので、速やかに薬剤による防除を実施する。
ムギダニ	並	○2月中旬の発生量：－ □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（±）	・麦踏みは生息密度低減効果が高いので、莖立前までの麦踏みを徹底する。

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病虫害については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

## 2 トマト（冬春栽培）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
灰色かび病	並	○2月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（±）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ <a href="#">参照1</a> ）を参考に防除対策を実施する。
葉かび病	並	○2月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（±）	・多湿により助長されるので、ハウス内の温湿度管理に注意する。
黄化葉巻病	並	○2月中旬の発生量：散見 □2月中旬のコナジラミ類の発生量：多（+）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ <a href="#">参照1</a> ）を参考に防除対策を実施する。
コナジラミ類	多	○2月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い（+）	・本虫はトマト黄化葉巻病ウイルスを媒介するため、防除を徹底する。
<b>【共通注意事項】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。</li> <li>・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。</li> </ul>			

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

## 3 きゅうり（冬春栽培）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
べと病	やや少	○2月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（±）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ <a href="#">参照1</a> ）を参考に防除対策を実施する。
うどんこ病	並	○2月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（±）	・やや乾燥した条件により助長されるので、ハウス内の温湿度管理に注意する。 ・樹勢低下は発生を助長するので、適切な肥培管理を行う。
灰色かび病	並	○2月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（±）	・多湿により助長されるので、ハウス内の温湿度管理に注意する。
アザミウマ類	やや多	○2月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い（+）	・本虫は黄化えそ病ウイルスを媒介するため、防除を徹底する。
コナジラミ類	やや多	○2月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い（+）	・本虫は退緑黄化病ウイルスを媒介するため、防除を徹底する。
<b>【共通注意事項】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。</li> <li>・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。</li> </ul>			

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

#### 4 いちご（本ぽ）

病害虫名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
灰色かび病	多	○2月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（±）	・多湿により助長されるので、温湿度管理に注意する。
うどんこ病	並	○2月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か少ない（±）	・草勢の衰えにより助長されるので、適切な肥培管理を行う。
アザミウマ類	やや多	○2月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い（+）	・ミツバチに影響があると考えられる薬剤は、使用時期に十分注意する。
ハダニ類	やや多	○2月中旬の発生量：やや多 □気象予報：気温は高い（+）	
<b>【共通注意事項】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。</li> <li>・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。</li> <li>・生物農薬（天敵）を使用している場合は、悪影響がないよう薬剤の選択に注意する。</li> </ul>			

#### 表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

## 5 茶

病虫害名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
カンザワ ハダニ	やや多	○2月中旬の発生量：多 □県予察ほ場の発生量：並（－） □気象予報：気温は高い、降水量は は平年並か少ない（＋）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「病虫害診断のポイントと防除対策」 (<a href="#">参照1</a>)を参考に防除対策を実施する。</li> <li>・茶園の裾部や茶畝の南側・西側の日当たりの良い箇所を観察し、多発が見込まれるようであれば、速やかに薬剤による防除を実施する。</li> <li>・薬剤による防除を実施する場合には、抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。</li> </ul>

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

### <農薬使用上の注意事項>

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。  
特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、  
周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 5 農薬の最新情報は、[農薬登録情報提供システム（農林水産省）](#)から検索できます。

農薬登録情報提供システム（農林水産省） <https://pesticide.maff.go.jp/>

#### 表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病虫害については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

2 気象概要 1 か月予報 (令和5年2月23日発表)

出典：気象庁ホームページ ([https://www.jma.go.jp/jp/longfcst/103\\_00.html](https://www.jma.go.jp/jp/longfcst/103_00.html))

<予報のポイント>

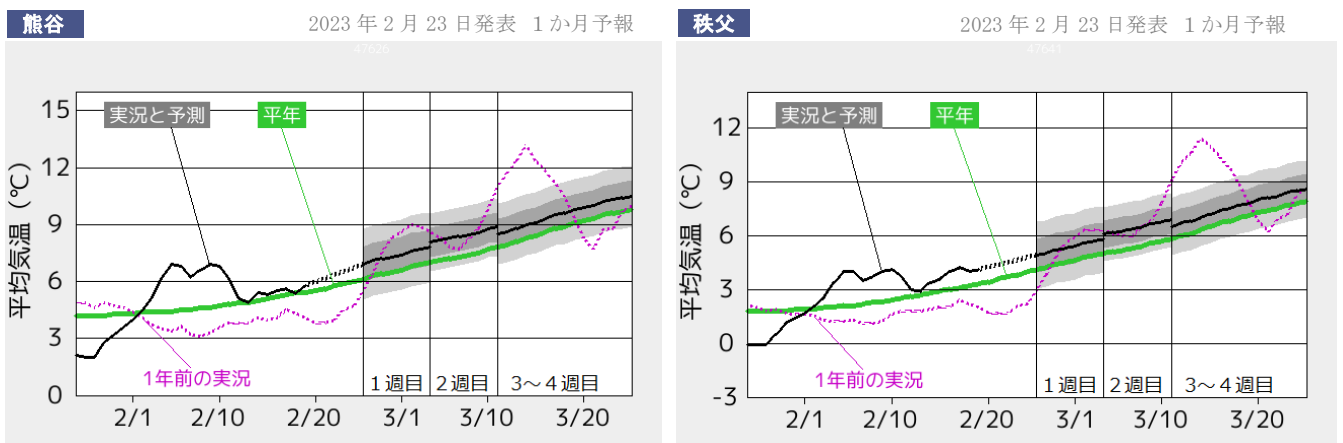
・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる可能性があります。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

【気温】 関東甲信地方	10	30	60
【降水量】 関東甲信地方	40	40	20
【日照時間】 関東甲信地方	20	40	40

凡例： ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

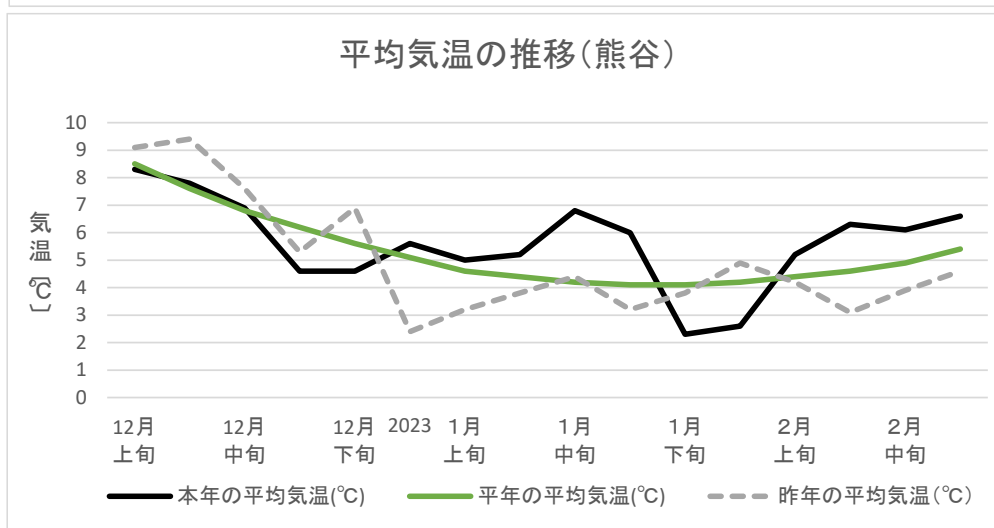
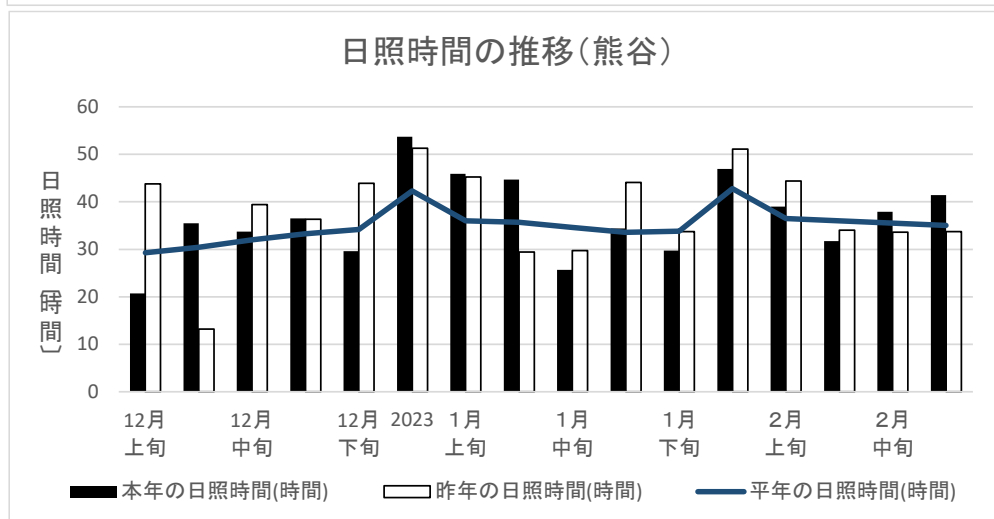
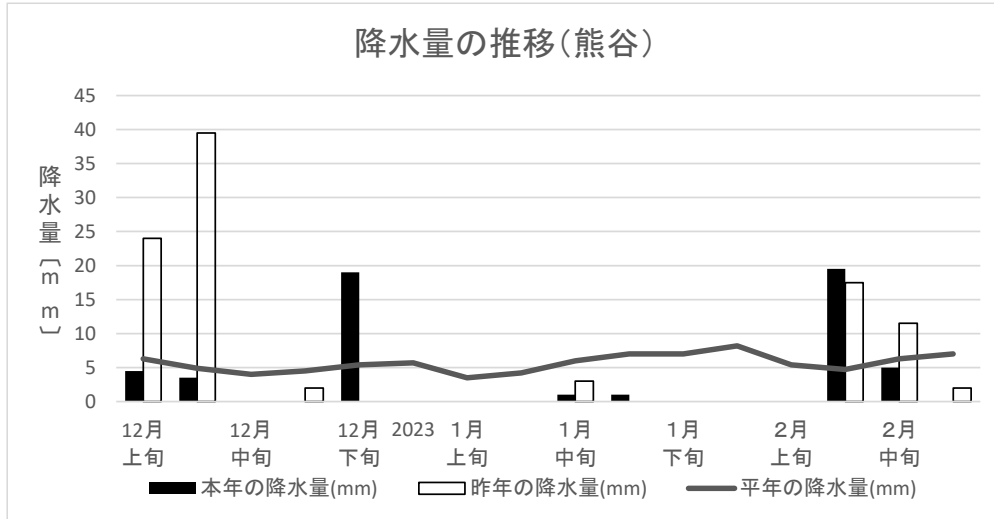
(参考資料1) 1 か月予報による気温の見通し (地点ごと)



図の見方

- 今年の実況(黒色の太い実線)** —————  
7日間の平均気温(プロットする日からみて3日前から3日後までの7日間の平均気温)を示しています。
- 予想(太い実線と網がけ)** —————  
予想の気温は、週別の平均的な気温の見込みを太線で表しています。また、信頼の程度が40%の幅を濃い網掛けで、70%の幅を薄い網掛けで示しています。>>> [詳細](#)
- 平年値(緑色の太い実線)** —————  
平年値(1981~2010年の30年間の平均)を緑色の太い実線で示しています。
- 昨年の実況(紫色の点線)** - - - - -  
昨年の実況値(7日間平均気温)を紫の点線で示しています。

(参考資料2) 過去の降水量、日照時間、平均気温



問い合わせ先  
 埼玉県病虫害防除所  
 〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広 784  
 電話：048-539-0661 FAX：048-539-0663  
 E-mail：k3603114@pref.saitama.lg.jp  
<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/>